

姉妹都市紹介 米沢市でかりゆし議会



本市の姉妹都市・山形県米沢市の市議会6月定例会最終日、中川勝米沢市長や市職員、市議会議員など議場内の全員がかりゆしウェアを着用しての「かりゆし議会」が開催されました。

雪国の米沢市でも夏は蒸し暑く、着心地の良いかりゆしウェアを着用する職員も多いとのこと。

沖縄市との姉妹都市交流のPRも兼ねて開催されたかりゆし議会は、今回で2回目。今後もさまざまな取組をとおして交流を続けていきます。

米沢市は、江戸時代に上杉氏(米沢藩)の城下町として発展し、上杉鷹山による藩政改革が有名です。

特別豪雪地帯に指定されていますが、温泉やスキーなどの観光が気軽にでき、米沢牛や米沢鯉、雪菜、豆もやしなどの食も楽しめます。

米沢市と沖縄市は、1994(平成6)年4月1日、沖縄市制施行20周年の年に姉妹都市提携を結び、両市のまつりやエイサーなどを通じて文化交流等が行われています。

我が街の 新星紹介

輝く沖縄市の企業家たち!

～市内に新しく生まれた注目企業を紹介します～



(株) Link and Visible
代表取締役社長 豊里 健一郎さん

一番街商店街周辺に、居酒屋、カフェ、ギャラリー、ゲストハウスなど新店舗が次々にオープンしているなか、ユニークな活動を展開するIT企業やベンチャー企業も増えてきました。今回ご紹介する元気企業は、「(株)Link and Visible」です。

代表の豊里健一郎さん(32)は商売のまちである一番街で育ちました。「中学生の頃に1年間の予定で中国へ留学しました。当時の中国は急激な経済発展とともに、世界各国から人が集まっていた大変魅力的なところでした。そのため私は帰国せずに中国の高校・大学に進学し、現地の日系物流企業に就職しました。そこでは最先端のIT技術とプロジェクトマネジメントを学び、めざましく発展する中国で国際感覚も磨かれました。」と豊里さんは懐かしそうに話します。

2017年に帰国し、一番街でこの頃からの夢だった自分の会社を立ち上げ、「つなぐ」とこと、「可視化」を意味する「Link and Visible」と名付けました。システム開発だけでなく、顧客が抱える課題をIT技術で解決するいわゆるソリューションカンパニーです。

例えば飲食店で、



▲インタビューの様子

豊里代表



POSレジの導入だけでなく、蓄積したデータをAI(人工知能)やBI(ビジネス・インテリジェンス)ツールで分析・加工し経営戦略の意思決定や経営改善に大きく貢献した事例もあります。

また、同社は、一番街にある創業支援拠点「スタートアップラボラトリー」の企画運営を沖縄市から受託しています。ここでは、創業相談、ICT人材育成、商品開発支援に加え、さまざまなイベントを開催するなど、国内外から多種多様な人々が訪れています。

国内や海外からも創業を志す人たちが、豊里さんの探求心に心惹かれ沖縄市に集結することで、飲食業やIT関連の起業家たちが次々と生まれるなど相乗効果が起きています。

豊里さんは「今後はアジアの人たちと一緒に」と新しい取り組みをしたい。そのハブ(中心軸)になりたい」と熱く抱負を語ります。

時代に応じた革新的な手法を次々と生み出し、世界を巻き込んでいくなから沖縄市をさらに魅力あるまちへ発展させたいと意気込んでいます。

(株) Link and Visible

■住所 沖縄市中央1丁目16番11号

■電話番号 050-15216-8414

お問い合わせ 企業誘致課 (内線324)